第　号
3.11.-2
笠岡市議会事務局

様式第７号

厚生産業委員会行政視察報告書

令和３年１１月２日

笠 岡 市 議 会 議 長　殿

（参加者）議員　仁科　文秀　㊞　議員　藏本　隆文　㊞
議員　齋藤　一信　㊞　議員　東川　三郎　㊞
議員　森岡　聰　㊞

（笠岡市こども部）
こども部　部長　中島　徹　こども育成課　課長　仁井名　敏文
子育て支援課　課長　山田　真二

次のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【１】　兵庫県明石市議会（オンラインにて実施）

【視察目的】笠岡市の「子育ての環境整備」のために、子育て施策では全国屈指の先進地である明石市の施策について説明を受ける。その結果として、「子育ての環境整備」について政策提言書作成の参考となり、“子育てするなら笠岡市”となる施策の実現を推進する。

住　　所	兵庫県明石市中崎１丁目５番１号
電　　話	０７８－９１１－２６００
視察案件	１　子育て世帯の移住施策とシティセールスについて ２　一時預かり事業について

日　　時	令和３年１０月２７日（水）　９時３０分 ～１１時３０分
応 対 者	明石市政策局シティセールス推進室長兼シティセールス課長　藤田　氏 明石市こども局こども育成室利用担当課長　岡部　氏 明石市こども局こども育成室運営担当課長　山本　氏
視察状況	別紙写真のとおり
概　　要	●明石市が子ども、子育てを核とした政策に重点をおいていることについては泉市長の発言や発信から理解していた。 大都市の神戸市、加古川市等にはさまれながらも、“子育てするなら何といっても明石市”と若いお父さん、お母さん方に共感させる施策を展開し、定住・移住させるまち。どの市町村でも力を入れたくなる企業誘致や産業振興よりは、「暮らす」「育てる」に予算も人もエネルギーもつぎ込む。 子どもをしっかり応援することが明石市の未来につながる。持続可能なまちづくりをするためには、納税者・支え手を増やさなければならない。そして、継続的・構造的に子育て支援をしていないと動かない指標である０～４歳児を増やしてきた自負を痛いほど感じる。そんな明石市である。 令和３年度の一般会計予算１０６８億円のうち子ども関係予算が２５８億円、子ども関係予算が笠岡市の一般会計予算を上回る。また、子ども関係の職員も１０年間で３倍に増やしている。 ●視察では冒頭で、榎本議長から、明石市の紹介、子育て政策への思い等を丁寧にわかりやすく説明していただいた。 ●限られた視察時間であることもあり、今まで市内の幼稚園、認定こども園等で意見や要望を聞いた内容、委員からの要望から、「子育て世代への移住施策とシティセールス」と「一時預かり事業」の２点について、説明を受けた。 ●「子育て世代への移住施策とシティセールス」について 目標として掲げるのが「明石市市民には、将来にわたり住み続けてもらう」「将来の住まいとして市外の方から明石市を選んでもらう」「明石市の認知度（ブランド力）を上げて訪れてもらう」。 職員全員がセールスパーソンであり、３０万人市民がセールスパーソン。広報紙は市民へのラブレターとして、月２回発行している。市民誰もが楽しく読める広報紙とするため、電通やサンケイリビング新聞社より出向社員も受け入れている。パブリシティ活動として職員の広報マインドも醸成している。

	笠岡市では、「子ども、子育て」に関係したことであれば、こども部が実務から市民への制度の周知等をすべて行うことになる。しかし、明石市では、子育て支援制度の実行部隊は子育て支援課、市民への制度の周知は広報課、市外の人へのＰＲならシティセールス課とそれぞれが役割を分担している。それらがうまく機能しているようだ。 笠岡市では、毎年１０月に「子育て支援情報」を発刊し、制度の周知に努めている。この１０月も広報紙１０月号とともにすべての家庭に配っているが、どれだけ周知できているか疑問である。配られていることを意識しない市民も多い。また、配布して終わりという情報紙ではないと思う。説明が必要だろうし、理解してもらうために何度も繰り返し発信する必要もある。 ある幼稚園で、笠岡の子育て制度・政策を知っているかと質問したところ、２３人中知っているは１人、少し知っているがほとんど知らない１６人、知らないが６人という結果であったという。 シティセールス課では、シティセールスニュースを毎月制作している。 「子育て世帯に選ばれるまち明石」として、明石市の子育て施策や取り組みの成果を市外へ発信している。明石が好きな市民９０．８％、住みやすいは９１．２％、高校生まで医療無料、第２子以降保育料完全無料化等の資料を見せられて心が動かない保護者、特に若いお父さん、お母さんは少ないと思う。結果として、移住者が増え、合計特殊出生率も１．７０となり、年間に３０００人近くが生まれている。そして、人口は目標とする３０万人を突破している。 子育て支援制度について、明石市と比較して笠岡市も大きく劣っているわけではない。ふんだんに予算はかけられないが、しかし、保護者が必要とする施策はかなり実現できていて、評価もされている。 しかし、制度の周知徹底ができてなかったり、ＰＲが弱かったりで残念である。 こども部で制度の実務から市民への周知、市外へのＰＲまでするのがいいのか、広報、ＰＲは別の部門で行う方がいいのか。情報紙の作り方、内容、周知、市外へのＰＲ等、考える必要がある。 明石市では、「～全国初、～兵庫県初」「二番煎じではない」施策が実現できる強さ、有利さがある。それだけお金をかけている。

	笠岡市の場合は、限られた予算ではあるが、子育て世代の「かゆいところに手が届く」施策をさらに進めるために、何が必要で、何をしなければいけないか、継続して調査研究し、実施していきたい。 「子育てにやさしいまち笠岡」「子どもを大切にするまち笠岡」を市内外へ強力にアピールしたい。 ●「一時預かり事業」について 幼稚園や認定こども園の保護者から、乳児、小学生の一時預かりについて困っているという声がある。働くお母さんが増え、その要望が増えてきている。また、平日だけでなく、土日祝日（休日）の希望もある。 最近は、コロナ禍の影響や正規雇用がきびしくなるなど、夫の収入減を訴え、一時預かりの重要性に言及する意見も強い。 明石市では、保育所に通っていない、在籍していない子どもについては、私立の保育所、認定こども園で対応している。また、公立・私立を問わず多くの認定子ども園と公立幼稚園では、１８時までの預かりを実施している園がある。これらは平日の実施である。 休日の預かりについては、一時保育ルーム（にこにこ保育ルーム）がある。ＪＲ明石駅、山陽明石駅のそばにあり、平日だけでなく休日も開いている。委託事業として、年間延べ５０００人程度の利用があるという。 笠岡市では、平日は少し遅くまで預かってくれる公立保育所、私立保育園、認定こども園があるものの在籍児が対象である。放課後児童クラブは平日の運営である。また、一時預かり施設や制度はあるが、これも平日が中心である。休日も利用できるファミリーサポートセンターでは利用料が高い。ショートステイもあるが、園や学校への送り迎えの負担もあり、利用者が少ない。 保護者の働き方の多様化、核家族化で子どもの面倒をみる人がいないなど、保護者側の要望が多岐にわたってきている。乳児から小学生まで、平日、休日も安価で一時預かりが可能となればありがたい。 また、「子育て支援情報」の預かりも制度別ではなく、制度が理解できていない保護者のために、対象者別（乳児、在園児、小学生の別）、曜日別（平日、祝日の別）等、わかりやすい表現に変える工夫も検討してほしい。 ●最後に 笠岡市は、企業誘致、産業振興、観光、教育、子育て、福祉などあらゆる部

	門に総花的に力と資金を分散投資しようとしている。明石市は子育て支援に特化した政策を実行し成果を上げている。著しい少子化やまちの将来を考えたとき、笠岡を背負って立つ子どもたち、若い人たちの暮らしに重点を置いた政策の重要性について、再度考える必要があるのではないかと思う。
添付書類	視察資料　　視察状況写真